

メントール入り温熱アイマスクで涙液が増加する

有田玲子、森重直行、阪本一朗、今井奈津子、井垣通人、鈴木敦、坪田一男

【目的】

角膜に存在する冷温知覚神経細胞はメントールの存在下で活性化され、涙液分泌の促進に關与することが報告されている。メントールを含有するものはさまざまな市販品として販売されている。今回、メントール入り温熱アイマスクの涙液層に及ぼす影響について比較検討したので報告する。

【方法】

対象はドライアイ症状のない男性 10 例、女性 10 例 (34.9±6.7 歳)。各対象に (1)メントール含有温熱アイマスク (M+) および無香料温熱アイマスク (M-) を単回使用, (2)M+のみ 1 回 10 分間で 1 日 2 回, 14 日間使用させ, 施術前後のドライアイ問診、眼瞼縁所見、涙液層破壊時間 (BUT)、メニスカス高、マイバムグレード、マイボーム腺面積の定量、眼表面温度、シルマー値を評価した。

【結果】

単回使用で M+の BUT、メニスカス高は有意に増加した ($p=0.010$, $p<0.001$)。M-の単回適用で BUT、メニスカス値は増加しなかった ($p=0.23$, $p=0.20$)。M+、M-の単回使用で眼表面温度が有意に増加した ($p<0.0001$, $p<0.0001$)。連続使用で M+の BUT、メニスカス値は有意に増加した ($p=0.048$, $p=0.004$)。マイバムグレード、マイボーム腺面積の定量、シルマー値の有意な変化はなかった。

【結論】

メントール温熱アイマスクは、涙液の水層を増加させ涙液の安定性を増したと考えられた。メントール入り温熱アイマスクがドライアイの治療に応用できる可能性が示唆された。